

# 特別講演概要

演 題 「生物の進化と老化の観点から見た骨

Bone in the evolution and aging of life」

講 師 埼玉医科大学ゲノム医学研究センター客員教授

日本学士院会員

須田 立雄 氏

## □ 講師経歴

1960年 3月 東京医科歯科大学 歯学部卒業 1964年 3月同 大学院歯学研究科修了（生化学専攻）

1968年 7月より2年8カ月間 ウィスコンシン大学（Madison）に留学し、DeLuca 教授の下でビタミンDの代謝研究に従事.

1971年 2月 活性型ビタミンDの構造決定を終えて帰国. 母校歯学部にて助教授として復帰.

1977年 7月 昭和大学歯学部の開設に伴い、教授として異動、口腔生化学教室を主宰.

1992年 9月 スペースシャトル「エンデバー号」に30個のニワトリの受精卵を搭載し、毛利 衛さんと共に、わが国初の本格的宇宙実験を実施

1997年 4月 昭和大学歯学部長. 1997年 7月 日本骨代謝学会理事長.

2000年 3月 昭和大学定年退任 同 名誉教授.

2001年 4月 埼玉医科大学ゲノム医学研究センター教授・副所長

2006年 4月 埼玉医科大学 客員教授日本学術会議 連携会員

2007年 9月 米国骨代謝学会（ASBMR、Honolulu）でLouis Avioli Memorial Lecuture を行う

2007年12月 日本学士院会員

## □ 講演内容

地球の歴史を1年に縮めてみると、人類は大晦日の午後11時59分に登場したに過ぎないという。45億年前に地球が誕生してから、永い、永い時間が経過した。現在、地球上には3,000万種を超える多様な動植物が生存している。その中で最も進化した生物は脊椎動物であり、その頂点に位置するのがホモサピエンス（現生人類）である。言うまでもなく、脊椎動物の最大の特徴は「脊椎（骨組織）」を持つことである。最近の総務省の発表によると、わが国の65歳以上の高齢者人口は全人口の22.5%を超え、その実数は2,800万人に達したという。このような高齢社会を反映して、生活習慣病のひとつである骨粗鬆症を患う高齢者が急増し、その実数は1,000万人を超えたと推定されている。今回の「山梨科学アカデミー」の講演会では、生物の進化と老化の観点から見た骨の諸問題について、考察をしていただいた。